

特集 芦屋を彩るアーティスト



芦屋 ×

最後の晩ごはん

榎野道流 作家

「最後の晩ごはん」シリーズ

読むとお腹が空くけれど、心は満腹間違いなし！

ねつ造スキャンダルで活動休止に追い込まれた、若手俳優の五十嵐海里(カイリ)。全てを失い、郷里の芦屋に戻った彼は、定食屋の夏神留二に救われる。彼の店で働くことになった海里だが、とんでもない客が現れ……。

人の優しさとおいしさで救われる、切なくてファンタジックな青春小説！！

榎野 道流 【ふしの みちる】

兵庫県出身、芦屋市在住。1996年「人買奇談」で第3回ホワイトハート大賞エンタテインメント小説部門の佳作を受賞しデビュー。その後発売された「人買奇談」に始まる「奇談」シリーズが人気となりロングシリーズに。一方で法医学教室の監察医としての経験も生かし、「鬼籍通覧」シリーズなどの監察医もののミステリーも発表。



出版社の担当者に「これからは、実在するまちを舞台とした小説を書くべきですよ」と提案され、長年住み慣

—なぜ、芦屋を舞台に小説を書こうと思ったのですか

—なぜ、芦屋を舞台に小説を書こうと思ったのですか

—作家のほかに医師としての活動もされていますか

—作家のほかに医師としての活動もされていますか

—作家活動を始めたきっかけは

—作家活動を始めたきっかけは

—小説の舞台となる「ほんめし屋」の場所は

—小説の舞台となる「ほんめし屋」の場所は

—小説を書く時に法医学者時代の経験は生きていますか

—小説を書く時に法医学者時代の経験は生きていますか



「最後の晩ごはん」シリーズは、現在7作発行されています。

—これから小説に描きたいと思うところはありますか

—これから小説に描きたいと思うところはありますか

—芦屋については

—芦屋については

—芦屋については

—芦屋については